

1.計画名称

縄文の里史跡整備・活用基本計画

2.計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	尖石遺跡第2期整備、永明中学校校庭遺跡発掘調査、市指定文化財パトロール、博物館「市民研究員」や考古館「ちの縄文遺産市民ガイド」の育成事業の実施に伴い、文化財の保存と活用の意識が高揚している。 各施設において、それぞれの特徴を活かした企画展や各種イベントを開催しており、地域の自然や歴史の掘り起こしや紹介を行っている。
今後の重点化施策番号	1	説明	特別史跡の指定を受けた尖石遺跡と史跡の上之段遺跡と駒形遺跡は、縄文文化を大切に思う先人達から受け継いだ当市の財産で、縄文文化をいかした個性あるまちづくり、人づくりを進めるための拠り所となる。これらの縄文史跡を適切に保存し次代に継承すると共に、多様な市民生活に活用するために整備を図る必要がある。

3.各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	史跡保存された縄文遺跡の保護の充実	おおむね順調	尖石遺跡の第2期整備(支障木伐採、台地斜面保護盛土等の環境整備)、尖石遺跡西側民有地の確認調査の予定した事業を滞りなく実施した。上之段遺跡での児童との詳細分布調査も予定どおり実施した。	上之段遺跡と駒形遺跡は、尖石遺跡と共に縄文を意識したまちづくりの核となる大切な遺跡であるが、整備の根拠となる確認調査が実施できていない。	尖石遺跡の第2期整備及び追加指定と併行しながら、駒形遺跡と上之段遺跡の確認調査を進めることが必要で、史跡整備係を新設するなど抜本的な体制の見直しを行い、「縄文の里」としてバランスの取れた史跡の保存と活用をめざす。 まずは尖石遺跡の追加指定をめざし、史跡保存を一区切りとした後に、駒形遺跡と上之段遺跡の整備に向けて取組む。
2	埋蔵文化財保護の充実	順調	各種開発事業に伴う試掘調査、個人住宅等関連発掘調査、市及び民間の受託調査等を行ない、遺跡を適正に保護した。また、実施した市内遺跡発掘調査の成果を報告書にまとめ、ホームページ上で公開した。	遺跡を適正に保護するために、引き続き保護協議に注力する。遺跡保護に対する事業者の理解と協力が十分得られるように、引き続き試掘調査による遺跡の実態把握と遺跡範囲の明確化、既往調査のデータベース化に努める。	若手職員の増員により、調査体制が強化され、現場作業は順調に進んでいる。引き続き、遺跡を適正に保護するために、事業者との事前協議に注力するが、その基礎資料となる遺跡分布図の精度を高めていく。
3	文化財保護の充実	おおむね順調	文化財審議委員会を2回以上行っている。毎年、指定文化財の日常的な保護、保全活動等に要する経費の一部を、文化財保護団体に交付している。	自然環境や社会情勢の変化により、文化財を取り巻く環境が悪化しており、様々な課題を抱えている。特に維持管理のための財源確保や少子高齢化による次世代への継承が課題である。	文化財所有者に保護意識を高めてもらうため、保護啓発チラシの配布を継続する。また、文化財パトロールを継続し、保護に資する情報を所有者に提供した。
4	文化財を学び、知る場の整備と充実	おおむね順調	各施設では、収蔵資料の特徴をいかした企画展、定番事業や市民ニーズに応じた事業が行なわれた。市民研究員や市民ボランティアによる活動も活発に行なわれ、公民一体の事業展開が定着した。	地域の貴重な資料等の保存と活用を図るため、公共施設再編計画を注視しつつ、必要な改修を計画的に実施すると共に、保存と活用を担う職員と市民研究員等の充実が課題である。施設の連携が十分でないため、当地域の多様な自然と重層性のある歴史を体系的に発信することができていない。	都市計画課と連携を図り、不具合の早期発見に努め、必要な改修を行う。講座の内容を充実させ、ホームページやSNSによる情報発信に注力し、新たなファンを取り込み、市民研究員等の増加に努める。各施設の連携を強化し、当地域の自然と歴史を体系的に発信する。
5					

※5つ以上の場合は裏面へ

4.関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

	主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		